

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2270600493		
法人名	有限会社富南		
事業所名	グループホーム富南の郷里 (1階、2階 合同)		
所在地	静岡県三島市安久660-10		
自己評価作成日	平成24年12月31日	評価結果市町村受理日	平成25年1月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_2013_022_kami=true&amp;jiyosyoCd=2270600493-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_2013_022_kami=true&amp;jiyosyoCd=2270600493-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階
訪問調査日	平成25年1月13日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

「富南の郷里」は、伊豆の玄関口の三島市の最南端に、函南町との境にあります。豆州志稿の秋山富南が生まれ育ったおよそ3000坪の敷地の中に2階建てで建てられています。北に富士山、東は箱根連山が見渡すことが出来、心とみ、ゆっくり、ゆったりとした時間を過ごせる環境です。三島市安久の近隣の人たちのご理解とさまざまな応援に支えられ「その人と共にある」を常に想い、ご家族をはじめ、地域の方々と連携をとりながら職員一同、地域福祉のために努力してまいります。日中は非常勤で看護師がいて、夜間は訪問看護ステーションとの業務提携、さらに24時間対応の往診専門クリニックとの医療連携等、医療体制も充実しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「地域の人たちと共にゆったりゆっくりと第三の人生を共に歩む」という理念が職員一人ひとりに浸透していて、ゆっくり寛げる事業所です。理念に基づく運営は新たな取り組みにも着実に反映しており、昨年12月から夜勤者を2ユニットで3名体制とし、同法人事業所間を巡る地域の夜間パトロールも始めています。夜間3名体制とともに居室料を1万5千円下げ、ほかに類のない手厚いサービス態勢を整えつつあります。日中は非常勤で正看護師がおり、准看護師は介護職員として勤務していて、また夜間は訪問看護ステーションとオンコールでつながり、提携の医療機関も2つ加えるなど、医療体制の充実も目を見張るほどです。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の人たちと共にゆったりゆっくりと第三の人生を共に歩む。」理念に向けて、ゆったりとした空間、時間を公平・平等に提供できるように日々取り組んでいます。	入社時のオリエンテーションを始まりとし、1階と2階のフロアにも掲示して意識継続を促しています。朝の申し送りや職員会議では、基本に立ち返るものとして職員の軸となっています。フロアでも「待つ」姿勢のある職員を視認しました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の組に所属し自治会の行事に参加したり、町内清掃を一緒に行ったりしている。子供駆け込み110番の指定もうけている。	代表者が地域振興に尽力しているためか、事業所の祭りには地域住民とともに県議や市長の参加もあります。事業所の運営についてもその傾向はみられ、本年から夜間の地域パトロールも始めています。地域からは正月の獅子舞、子どもシャギリ(踊り)などが提供されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議の中で地域包括と、共に認知症ケアの勉強会等をおこない、近隣町内の情報も得て参考にしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ヒヤリハット・事故報告・行事など、議題を設定し行っている。入居者様のサービス状況を報告し、助言をもらいサービス向上につなげている。	家族のほかに老人会や地区からの代表者の参加を得て、隔月開催しています。身体拘束排除等の講習も導入していて、参加者の役に立とうという工夫があります。時間超過となるほど質問や意見が挙がっていて、また地域からも豊富な情報をもらえていることを書面で確認しました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム連絡会等に積極的に参加し、情報交換でホームの運営やサービスの質の向上、地域との交流に役立っている。また市町村担当職員などと連絡を密にし、相談や助言を受けています。	運営推進会議への市の参加はこれまでに1度のみですが、介護相談員には毎回、そして包括職員には数回参加してもらっています。市のグループホーム部会は、行政に事業所の意見を取り上げてもらう機会として、貴重な意見交換がおこなわれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会をおこない、理解を深めている。	玄関をはじめ施錠している箇所はありません。知識が充実しつつあるためか、全体が見渡せる位置に座るように工夫したり、スピーチロックについて職員間の会話にもものぼるなど、日々振り返ることができるようになっていきます。	身体拘束排除の委員会を立ち上げる予定とのことですので、実現され今以上にケアサービスが充実することを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事故等発生してしまったらすぐに事故報告書を作成し、職員全員のサインを記入し報告と情報の共有に努めている。ユニット会議でも議題にあげ、職員の言動が虐待になっていないか指導している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に付いて学び、必要性に応じ関係者と報告、連絡、相談をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はご家族等に同席していただき、契約書及び重要事項説明書の読み上げを実施し、納得した上で契約締結をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関入り口に設置。面会時など、話す機会を持ち、日頃から意見・要望をきいている。	ヘルパー2級を取得した家族から本人の入浴介助を手伝いたいとの申し出もあるなど、連携できている例がある一方で、家族と縁が薄い利用者もいて、ケースバイケースで対応しています。請求書には「振込みではなく持参を」と訪問を促し、月1回は面会してもらえるよう工夫しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、ユニット会議などで職員の意見や提案を聞く機会を設けている。代表者は管理者会議において、管理者との意見交換をおこなっている。	開設から9年を迎え、半数以上が長年の勤務者で職員の定着率も高いことから、ベテラン職員が新人職員にお手本を示し、会議の中でも建設的な意見を述べています。一方、新人職員も先輩に刺激され、昨今では意見がでるようになり頼もしさも感じられるほどです。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善交付金の分配状況、給与明細の見方を作成し開示している。各々の職員の職務における達成度について評価をおこなったり、資格習得における個々の向上心を把握し処遇につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験や習熟度に合わせ、シフト上可能な限り研修機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に行なわれている管理者会議、運営推進会議、グループホーム連絡協議会にて情報の共有、意見交換を行なっています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居初期は、職員とご本人が、なるべく多くかかわれる時間を作る。ご本人から聞いたことなどを、介護記録や申し送りノートなどに記入し、情報を共有して、職員と本人との関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学、相談にてご家族の不安を減らせるように話を伺い、ホームの説明をし、ご家族の不安を少しでも解消できるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談、面接時に伺った情報及び、入居前に受けていたサービス事業所より情報提供を受け、必要な支援を見極めています。また、他のサービスが必要であれば情報を提供し対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事仕事「洗濯、掃除、裁縫等」を個々の状態に合わせ、出来る事を職員と共にこなしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の状況を伝えたり、ご本人の意向をふまえて今後の支援についての話を面会時等に話し合い、出来る限りのご家族のかかわりをお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出、外食等の機会を設けご家族等との入居前の関係を維持できるように支援している。外からの来客者には又気軽にお越しいただけるように言葉掛けをさせていただいている。	親戚や知り合いの訪問や、仕事をもつ家族の夜間面会にも対応しています。好みの新聞を取り寄せたり、編み物やスケッチなど以前の趣味を職員支援でひも解きだしている利用者もいます。赤ちょうちんをつり、即席ビアガーデンでノンアルコールビールを楽しんだこともあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の性格、能力を把握し、協力して過ごせるよう援助している。外出や協力時、入居者様同士の相性等考え支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もご家族が訪問してくれたり、手紙等にて近況を知らせてくれる。退去された後も、その後の様子を伺ったり、面会に伺ったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中から出てくる言葉、表情、しぐさなどからその入居者様の思いを把握するように努めユニット会議などで職員間で共有して、本人の意向に沿えるように検討している。	ベテラン職員ならではの経過観察ならびに発見があり、利用者のみならず若い職員の安心に繋がっています。また、新人だからこそ晴眼で気づいた例もあり、相互に研鑽している様子が伝わります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族等から話を伺い、記録などに残して情報の共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別に生活記録・業務日誌・生活チェック表などに記入し、申し送ることで暮らしの現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議で話し合い、その人にとってよりよい生活が送れる様に考えている。	居室担当制を敷いていますが、すぐ手にとれる場所にプランが置かれ、プランが変化するような事柄についての気づきを全ての職員が随時記載するようになっていました。そのため、カンファレンスにももれがなく、またプランを意識した取り組みへと繋がっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送りノートに、いつもと違う状況や新たな気づきを記録しユニット会議などで話し合い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	弊社における同事業所間の会議で話し合い、可能な限り要望に近づけるよう取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの公園、神社への散歩、店での買い物など暮らしを楽しむことができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係構築しながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からのかかりつけ医に通院していただくか、ホームと連携している訪問診療の医師に移行するかは、ご本人とご家族の希望に沿って決めている。	本年から協力医療機関が2つ増え、また訪問看護と夜間オンコールの提携を結んでいます。非常勤で正看護師と准看護師がおり、准看護師は介護職員として現場にいて、さらに安心の体制を整えています。大半の利用者は月2回往診があり、2名のみ家族が受診支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中は、非常勤看護師が健康管理、医療面における支援、相談を受けている。夜間は訪問看護ステーションとのオンコール対応にて報告、連絡、相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、入院前の体調変化やバイタルチェック、ADL等の情報を提供し、面会時や電話で病院関係者と連絡しあっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にターミナルの説明を行い終末期の希望を聞き、職員、家族共に共有している。重度化した場合は、ご家族の意向を確認し、医師を交え職員、ご家族等と話し合いを持ち方針をたてている。	事業所として過去に4例の経験をもち、また往診の医師からも協力の声がかかり、取り組む考えでいます。契約書にも指針を謳い、家族にも理解を得ていますが、家族の気持ちは変化が生じることもあるためケースバイケースで柔軟に対応する姿勢をもっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し確認、対応出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の災害時の訓練、緊急連絡網を作成し通信・連絡方法の職員訓練をおこなっている。風水害や地震を想定した避難マニュアルを作成し、運営推進会議でも防災の話をしている。	消防署に計画を提出した年2回の避難訓練をおこなっています。また、お祭りのテントを女性職員のみでおこない、何事も訓練の一環とする工夫がみられます。運営推進会議の意見を反映し、「自力歩行か、等利用者の状態一覧表を作成して、地域との連携の高さが覗えます。	広い敷地を擁する事業所を実質的な避難場所としたいとの地域の声から、本年の備蓄米を20*増やし40*としています。これを機会に地域連携のさらなる拡大を期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の返答能力に応じた質問方法、ご本人が思っている現実をなるべく否定しないように対応している。個人情報の取り扱いについては、職員の契約時厳しく指導している。	居室は中から鍵がかけられるようになっていません。また、呼びかけはさん付で、ドアのノックも慣習化しています。一人ひとりの利用者を性格やクセを理解しているようで、職員が関わり方を工夫している様子が視認されました。	関わり方の工夫について、家族など来訪者には理解しにくいケースもあると考えられます。外部者に誤解されないような、何らかの取り組みを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉だけではなく、身振り手振りなどの動作などからご本人の思いを受け止め、一人ひとりの表したいことを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、入床、食事時間、入浴ご本人の希望やペースに合わせた過ごし方を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理美容師を利用。ホーム内で職員が行なう事もある。着替え準備の際には、ご本人が選べるように職員が関わり支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事やおやつは好みを聞いて提供している。食事の準備や後片付け等は、その方に合った役割分担をしていただいている。	重度化により介助が必要な人が増えたことを契機に、食事は業者から届けられ、また職員も介助のため一緒に食卓を囲むことが難しくなっています。常食は決まっていますが、寿司などのリクエストには随時対応しています。しぶ柿づくりなどおやつを一緒につくることもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事摂取量を主食、副食に分けて毎回記録している。水分摂取量の少ない方には、ゼリーや好みの飲み物を提供している。一人ひとりの状態や力に合わせ、刻み、ペースト食等の対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に口腔ケアの介助、言葉掛けを毎食後行い、眠前には義歯をつけ置き洗浄していただくように言葉掛け、介助している。訪問歯科診療を受け、口腔ケアの指導を受けている入居者様もいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表に記入しながら一人一人の排泄パターンを把握し時間的な言葉掛け、誘導するなど自立に向けた支援をおこなっている。	腹をさするなど工夫を加えつつ、「できるだけトイレで」ということを旨として、取り組んでいます。また、「気持ちいい排泄を」との思いから、朝食に寒天を加えることもおこなっています。排便の時間を把握し、誘導することにより、トイレでの排泄につながった例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排便の周期の把握。朝食前に牛乳を飲んでいただく。水分補給(果実ゼリー・お茶ゼリー)食事の工夫等に配慮し、必要あれば主治医と相談し排泄のコントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低週二回入浴していただけるようにし、入浴拒否される日がある場合は、日を入れ替えるなどの対応をしている。又毎日入浴されたいなどの希望のある入居者様には入っていただいている。	週1日を休みとして、その日は受診支援やレクなどに充当しています。入浴の頻度は週2日をめやすとして、嫌がる人には清拭などサービスを替え、清潔保持に努めています。また、炭酸泉でのゆったり入浴を楽しみにする利用者には毎日との希望に応えています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各入居者様の状態に合わせて休んでいただいている。体力の低下している利用者様には状況に応じて、日中も休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があったり、新しく処方された場合は口頭と書面で随時職員間へ申し送り理解するようにしている。薬の変更時には体調変化など注意深く見守り、経過を記録に残し、必要に応じて主治医、看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴に沿って、また希望に応じて新聞を取ったり、力を生かした役割を持ち、花見、外食、ドライブ、買い物、催し物などの参加も個々に呼びかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	入居者様の体調に配慮しながら、天気の良い日には出来るだけ散歩に出掛けるようにしている。利用者様のADL低下、相性等を考慮し少人数の(1対1)対応での支援もおこなっている。	富士を仰ぐ大場川土手沿いを主たる散歩コースとして、天候と利用者の体調をみて出かけています。「ラーメンを食べたい」というリクエストに応えたり、近くの牧場や長岡の足湯など少人数での外出支援もおこなっています。受診と外食を兼ねて家族と出かける利用者もいます。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の方が対象のサービスの為、入居の際にご家族にトラブルがあり得ることを説明し、希望があれば必要最低限のお金を所持してもらっている。買い物へ同行した際には希望を聞き、後日請求書として購入もしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人情報に十分留意し、希望があればホームの電話を使用していただいている。年賀状、暑中見舞い等、出来る範囲でご本人に書いて頂くよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活音を愉しんでいただき、日中の光に対してはカーテン、照明等により調整している。時間により音楽を流したり、季節ごとに飾り付けをおこなっている。常に空調に配慮し空気清浄器や、時期に合わせて加湿器を使用している。	1階の掃出しの窓から出たり入ったり座布団を干す利用者もいて、日頃のオープンな関わりが視えます。対面のキッチンでの洗い物の音などがBGMのように流れ、テレビを観たい人は見、寛ぎたい人はソファに座し、家庭のように在ることを視認しました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファや椅子を設置してあり、相性、体調を考えた席替えをおこなっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みのあるもの(家具、寝具、仏壇等)を持ち込んでもらっている。配置も、ご本人、ご家族、職員と相談して過ごしやすいように配置している。	居室にはカーテン、エアコン、クローゼット、温度・湿度計が備え付けられています。加齢により持ち込みのベッドを介護用に切り替えた居室もあります。位牌やぬいぐるみなど、馴染みのものを持ち込んでいます。清掃の手順が確立しているであろうことが視える、清潔度の高い居室です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テーブルの向きや間隔を考えて配慮し、転倒しにくいように工夫している。トイレにおいては男性用、女性用の区別が判りやすいように大きな文字で表示している。		